

令和元年度 第5回大口町子ども・子育て会議

日時：令和2年2月6日（木）13:15～15:00

場所：大口町健康文化センター1階機能回復訓練室

【次第】

1. 委員長あいさつ
2. 報告・協議事項
  - (1) 子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画（案）について
3. その他

【資料】

次第

子ども・子育て会議委員名簿

子ども・子育て会議席次表

大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画

主な修正内容一覧

【委員】

欠席：中野委員、田中委員

【議事録】

事務局（福祉こども課長）：[あいさつ、進行]

中野委員からは欠席連絡を、田中委員、瀬瀬委員からは遅れる旨の連絡をいただいています。以降の進行は委員長にお願いしたい。

1. 委員長あいさつ

委員長：[あいさつ]

2. 報告・協議事項

(1) 大口町子ども・子育て支援事業計画及び次世代育成支援行動計画

委員長：それでは事務局より計画の修正点について説明をお願いしたい。

事務局（福祉こども課山口）：[計画案の修正点 説明]

委員長：前回いただいた意見からの修正した部分の説明をいただいた。

委員のみなさんからご意見をいただきたい。誤字脱字については後ほど、事務局に直接教えていただきたい。

天野委員：P29の修正はこれで結構です。

P114「メディアリテラシー」「学級活動の中で・・・」について、やっている学校もあれば、やっていない学校もあります。2行を削除していただきたい。

田中委員：「子育ては母親だけでなく」ということを前回話をさせて頂いて、その部分を修正してもらえてよかったですと思います。

大脇委員：災害のことを掲載してほしいという意見が追加されていてよかったです。

丹羽委員：意見の 11「いじめのない町にしたい」という意見がありました。

小学校でいじめがあると聞いています。子ども達だけは解決できないので、先生も関わっていただきたい。文章にするのは難しいとは思いますが、実際に取り組んでいただきたい。

横田委員：同じ大口町なのに、学校によってルールが異なることが疑問でした。その意見は、どこに組み込まれているのでしょうか。

委員長：小中学校での生活の仕方などについての不安があるという意見でした。保護者も子どもも不安があるので、情報発信を考えてほしいという意見でした。

天野委員：地域の実態があり、大口町の小中学校は個々の伝統があり、雰囲気や行事が違う部分、共通している部分もあります。

各学校の HP を見てもらえると、毎日のことがわかるようになっています。小中学校を知る良い方法かと思います。

いじめについては、教育委員会にいじめ対策を進めており、各学校が取り組んでいます。実際の対応は、いじめを積極的に認知する方向で動いています。担任に伝わることは、教員間で情報共有されます。

社会の縮図が学校子どもたちです。毎日、けんかがあったり、悪口を言ったりということもあります。小さな問題は山のように起こっています。いじめの対応は毎日の地道な活動で、1回ですむものもあれば、継続して関わることもあります。友達との関わりの中で、子どもたちが大人になったら対応できるようにと考えています。

いじめの重大案件については、すぐに対応しています。

文章ではカッコいいことは書けない。

委員長：保護者への情報発信に努めていらっしゃるということでした。

川端委員：父親の育児参加の部分で、パパと遊ぼうを年 2 回実施するといわれました。父親にも子育てに関わってもらいたい活動だと思います。ただ、父親教室は年 2 回では少ないのでしょうか。母親がいない場合に、どのように対応すればよいのかを知ってもらうためにも回数を増やしていただきたい。

木育について、カプラは自宅にもあります。現在自分の子どもは小学校 5 年生ですが、今でも時間を忘れて遊んでいます。小さい時から木のぬくもりに触れることは良いことだと思います。

事務局（尾関）：「パパと遊ぼう」は子育て支援センターができて始めた事業です。それまでは父親対象の事業がありませんでした。これまでに 2 年行っています。毎回、男性講師にお願いして、パパならではの筋トレを取り入れたり、力を使った遊びを教えてもらっています。毎回 25 組前後で参加してもらっています。

今後、この事業が定着していくようであれば、別の形でも回数を増やしていくことも考えていきたいと思っています。

川端委員：子育て支援センターの先生などは講座を実施したり、入ったりしないのですか。

事務局（尾関）：講座は、講師が開催して、付き添いで来た子どもの見守り、フォローは子育て支援センターのスタッフも入っています。

開催は広報大口で広報しています。広報の表紙に写真を載せてもらったこともあります。子育て支援センター、児童センターでチラシ配布もしています。

対象は未就園児です。開催の様子は、HP では広報をしていますが、今後検討していきたいと思います。

委員長：内容がわかると、参加したいと思うようになるかもしれません。動画を使うなど、町民が利用しやすいものにしていただきたい。

小学校、中学校の就学に際しての心配に、悩みに答えてもらえるような場はありますか。

天野委員：毎年 10 月ぐらいに就学児健診があります。昨日も入学前説明会を実施しました。説明会は 45 分間なので詳しいこととお話する状況ではありません。よく知りたいということであれば HP を見てほしいと思います。

また、アレルギーなど個別の質問についてはは電話でも対応しています。

委員長：幼保小の連携などで、幼稚園・保育園の保護者に学校での取り組みを情報提供する機会があると思いますが、どのように行われていますか。

事務局（酒井保育長）：幼保小の連携では、幼稚園・保育園に小学校の先生がそれぞれの園に来られる機会を持っています。

保育園では、保護者からよく聞かれる小学校に関する質問に答えられるように、小学校の先生にお聞きをしながら、それを保護者に説明する等の対応をしています。

ただし、改めて会を開催するということはありません。

天野委員：小学校では、幼稚園・保育園の先生だけの授業参観も実施しています。子どもたちが困らないような下準備はしています。

委員長：小中学校の情報について、大口ならではの情報提供ができるとよいと思います。

事務局（地問研）：中学校の教科センター方式についての漠然とした不安があるというご意見をいただいています。大口中学校でこの方式になって、既に 10 数年経っています。中 1 ギャップになるとは思いますが、小学校とのやり方が異なるので漠然と不安を感じる方がいるようです。本当に進学が差し迫った、リアリティのある年代にならないと、対応は難しいのではないかと思います。大口中学校ではなくても、中 1 ギャップはあります。その時になれば、説明もされますし、ある程度の不安は解消されるのではないのでしょうか。

天野委員：中学校に心配があるという意見です。大口中学校ではなく、どこの中学校に行ってもいろいろな不安があります。特に、大口中学校は教科センター方式で不安感が増しているのでしょうか。

小学校では、中学校への進学に備えて 3 小学校ともに、中学校の 1 日体験を行います。中学校に入学すると、キャンプも縦割りで行われ、教員は、縦も、横もわかる状況になっています。

成人式を終わった子どもたちに聞くと、教科センター方式、縦割りはよいという意見も聞きます。大口中学校だから起こる問題というイメージが先行していると感じていますが、どこの中学校に行っても小さな問題はいろいろあると感じています。

中学校についての説明は、子どもや保護者の不安を払拭する努力、話をし続ける必要があると感じています。

岩根委員：中学校の日常の給食時間に参加する機会があるので、子どもたちの様子を見ると、子どもたちが教科センター方式や縦割り等の中学校生活に戸惑っている感じは、ほぼ見ません。

中学校を卒業した高校生、大学生等に話を聞くと、異年齢の関係ができて、楽しい、違う学年の子もわかってよかったという意見も聞きます。

天野委員：大口町の3小学校は、ノーチャイム、学習の決まりも合わせるなど、中学校進学に向けて子どもたちが戸惑わないように、小学校6年間で準備をしています。

倉橋委員：これまでのご意見を聞くと不安要素の元は、大人世代が経験していないやり方を中学校で行っているために、子どもが言ったことに親が過剰に反応しているかもしれないと感じました。

例えば、南小学校は1クラスの人数が少ない状況にあり、中学校に行くと同級生の割合が少ない状況です。しかし、縦割りの関係で動くと、同じ南小学校の上級生が声をかけてくれることで、安心できることもあります。

全部がプラス、全部がマイナスということでもありません。PR不足を感じています。

スマートフォンは小学生も持つようになっています。親が子どものやること・できることを知っておくべきだと思っています。スマートフォンの使い方については、親が子どもについていけない状況もあり、親の思いもよらないトラブルに子どもが巻き込まれる可能性があります。スマートフォンを親も使いこなせるように、親が勉強しなければいけないと感じています。これは学校でも取り組みますが、保護者が勉強をしていかなければいけないと感じています。

委員長：個々の保護者が学ぶために、町政として行っていることはあるのでしょうか。

大口町は小さな町なので、いろいろなことが情報共有でき、迅速な対応ができると思います。問題、悩みの裏返しには良いこともあります。小学校、中学校は素晴らしい。誇りに思えるような街にするためにはどのようにすればよいのか、小さな町だからできることがあるとよいと思います。不安よりも誇りの方が良いと思います。

瀬瀬委員：大口町で20数年前に子育てを初めました。この間、子育て状況が激変する中で、必要なものが盛り込まれているかとみています。

23年前は母子手帳が配布されたら、母親教室への参加率が高かったのですが、現在では数人しか参加しない状況です。母親も仕事の関係で、地域で子供を育てる意識が低くなっています。

幼稚園・保育園の無償化が始まり、3歳になると就園する子どもたちも増え、子育ての自主サークルが減っています。リトルベアーズも続いてはいますが、縮小しています。

発達障がいの子どもが増えています。中学校での不登校が増えています。(扶桑町は1クラス5~6人とされていて)そのような中学校が多いと聞きます。

P63「障がい児の健全な成長の促進」とありますが、発達障害の子どもが増えています。原因は何かと思っています。母親のサポートが足りているのか、漠然とした不安感を持っている親が増えていると思います。「なんだかうちの子どもがおかしい」と思っている親

に届くと良いと思います。

委員長：前回の計画でシームレスな取り組みを進めることが盛り込まれました。

瀬戸委員：自分の子どもの凸凹さ加減にどうしようと思っている親にどのようなサポートをしているのでしょうか。

事務局（酒井保育長）：発達障がいのある取組については健診の時に気になる子どもには保健師から声がけをしています。保健師、子育て支援センターの職員などが気になる子どもや保護者には声掛けをして、子どもの様子を見るようにしています。子育て世代包括支援センターにより、その機能は強化されると考えています。子どもの発達について保護者は不安感を持っているので、保護者の悩みをいち早く吸い上げて、対応するようにしています。

また、うちにこもってしまっている親子への対応も進めているところです。

委員長：安心して、希望を持てる内容であればよいと思います。

服部委員：気になる親子とは、保健師等の専門家と早めの信頼関係の構築が必要です。

目次のP49、P65修正をしてほしい。

宇野委員：前回、防災についての内容を追加してほしいと意見を言って、追加していただきました。防災教室の開催について、社協では小学校と夏休みの児童センターで実施しています。ぜひ追加していただきたい。

委員長：入れて頂けるか。

事務局：了解しました。

委員長：修正については区切としていただきたい。

第4章の説明をお願いしたい。

事務局（山口）：[資料 第4章説明]

委員長：図が文字化けしている。修正してもらうので安心して頂きたい。

ご意見があればお願いします。

これを中心に事業を進めていくということを表しています。

岩根委員：戦略プロジェクトの目玉は「子育て世代包括支援センター」です。この後も続いてほしい大事な役目だと思います。子育て支援センター、保健センターが核になっていくもので、期待をしながら見えています。

地域包括支援センターと子育て世代包括支援センターとの関わりについて教えていただきたい。

とても名称が似ているので、愛着がわくような愛称のようなものがあるとよいと思います。

事務局（福祉こども課長）：障がい、療育については、地域包括支援センターと一緒にやっています。その延長の中で、子育て世代地域包括支援センターは、母子保健と一緒にやっていかなければいけないという国の方針の中で取り組んでいます。行政だけでは、人もサービス量も限界です。今やっている事業を乗せ換えすることが課題になっています。地元の団体に助けて頂きたいと考えています。ハイリスクの子ども達には、専門職が寄り添える支援が必要になっています。

子育て世代地域包括支援センターに愛称をつけるかどうかは検討させていただきたい。今ある施設やサービスの愛称を整理した中で考えていきたいと思っています。他の施設、サー

ビスと差別化を図る意味で考えたほうが良いと思うので、検討させていただきたい。

委員長：いただいたご意見に対応しながら修正をさせていただきたい。

今後の修正については、委員長、副委員長に一任をいただければと思います。

委員（全員）：（了承）

事務局（福祉子ども課長）：[今後のスケジュール説明]

2/24～3/9までの2週間にパブリックコメントを実施し、意見を踏まえた修正は委員長・副委員長と相談をさせていただきます。

県との協議もお願いしています。平行しながら作業を進めていきます。

委員長：ありがとうございました。

この件について了承いただけるか。

委員（全員）：（了承）

委員長：短い時間で

この計画をまとめて大口町の子育てに関する5年間の取組を進めていきたいと思っています。

委員のみなさまの知恵をいただき、ありがとうございました。

初めて参加された横田委員から感想をお願いします。

横田委員：幼稚園のPTA会長になり、参加させていただいた。これから未来をつくる子どもたちのためにこのような会議が開かれ、参加できたことは勉強になったし、素晴らしい街だということが分かりました。ありがとうございました。

委員長：心温かい言葉があった。ありがとうございました。

事務局（福祉子ども課長）：ありがとうございました。部長よりあいさつをさせていただきます。

部長：今年度全5回でここまでの計画ができたことに感謝申し上げます。

この計画は、これからの5年間の大口町の子育てに関する計画になります。委員のうちPTAの役員の方はは変わっていくかもしれませんが、関心を持って、見届けて頂いて、意見をいただければと思います。

お世話になりました。ありがとうございました。

事務局（福祉子ども課長）：本日の会議を終了させていただく、ありがとうございました。